

アサヒペン

●この容器は、水を加えてかきまぜられるよう、多少大きめに
つくってあります。中身の塗料は正確な量はいっていません。
●表示してある色、ツヤおよび容器の中の塗料の色は、乾いて
からの塗料の色と、多少異なることがあります。

水性
屋根用

遮熱塗料

屋根の表面温度上昇を抑える!

日射反射率
UP!

スレート瓦
各種セメント瓦
コロニアル
カラーベスト
トタン
カラータタン
鋼板の屋根
各種サイディング

塗りにくいときは
水
(5%以内)
でうすめて下さい

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は
使用していません。

使用方法・注意書きをよく読んで
から使用して下さい。

紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合



プレハブ・物置の屋根に



鶏舎・ペット等の飼育施設に

標準塗り面積 (2回塗り)
6.3~8.6㎡
約3.8~5.2枚分

乾燥時間
夏期/30分~1時間
冬期/ 2~3時間

塗り重ねの目安
夏期/2時間以上
冬期/6時間以上

1.6L

(※1) 遮熱効果について
表記してある温度は、独自の機器にて計測した自社比較試験によるものです。(実際の屋根で計測したものではありません)

商品名	水性屋根用遮熱塗料	品名	合成樹脂塗料(水系)
成分	合成樹脂(シリコンアクリル樹脂)、顔料、紫外線劣化防止剤 (HALS)、防カビ剤、防腐剤、防藻剤、サビドメ剤、水		
特長	●特殊顔料により従来塗料に比べ太陽光の赤外線を反射し、屋根の表面温度上昇を抑えます。●シリコンアクリル樹脂、紫外線劣化防止剤 (HALS) 配合により耐候性が優れています。●酸性雨、酸性雪、排気ガスに対し優れた保護効果を発揮します。●防カビ剤、防腐剤、防藻剤配合により、長期間屋根を保護します。		
用途	一般住宅、プレハブ、物置、工場、倉庫、飼料タンク・鶏舎・ペットの飼育施設などの以下の屋外用途。 ●スレート瓦・各種セメント瓦・コロニアルやカラーベストなどの新生瓦。 ●モニエル瓦・いぶし瓦・釉薬瓦・日本瓦・素焼瓦には適しません。 ●トタン・カラータタン・鋼板の屋根。 ●コンクリート・モルタルの壁面や各種サイディング。 ●絶えず水がかかったり、水につかるところやいつも湿っているところには適しません。		
塗装方法	①●はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを利用して充分に取り除きます。●ひび割れやすきまなどはあらかじめコーキング材・シーリング材などで補修しておきます。●塗る面の汚れ・ホコリ・カビなどを取り、油分はベントうすめ液で拭いてよく落とします。②●塗料がついて困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。③●アサヒペン遮熱塗料専用シーラーを下塗りして下さい。専用シーラーを下塗りすると、下地の補強効果と遮熱効果(反射率向上)がさらに発揮されます。④●フタに手をそえて、フタと容器の間にマイナスドライバーなどを差し込んで開け、棒などで塗料を充分にかき混ぜて均一にします。●塗料の粘度が高く塗りにくいときは、水で少し(5%以内)うすめます。夏期、塗装面が高湿になり、乾燥が速すぎて塗りにくい場合は、さらに少しうすめ調整します。⑤●瓦の重なった部分や継ぎ目など塗りにくいところは、先にすじかいバケで塗ります。●広い面積の部分は、瓦用ハケなどの大きいハケで軒先に對して縦に塗ります。(横に塗るとホコリがたまりやす) また、ローラーバケ、アサヒペンベントスプレーヤーなどを使うと、さらに速く、楽に塗ることが出来ます。●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。		

用具の手入れ方法	塗料が乾かないうちに、水か湯で洗って下さい。
遮熱効果について	●遮熱効果は塗装箇所の天候や環境、被塗物の状態、塗装条件、色などによって異なります。●日照時の表面温度をより下げたい場合は、明度の高い色を塗布して下さい。●明るい(明度の高い)色の遮熱塗料は同系の色同士で従来塗料と比較すると、表面温度の低下は、濃い(明度の低い)色同士での比較に比べて小さくなりますが、明度の高い色は元々日射反射率が高いので、同じ日照条件では濃い色の遮熱塗料に比べてより表面温度が低くなります。
下地処理の注意	①つるつるした面や塗面の粉化(チョーキング)が著しいときは、サンドペーパーで表面を荒し削りかきを取り除いてから塗して下さい。②ひび割れやすきまなどはあらかじめコーキング材・シーリング材・セメントなどで補修しておきます。③かわらの劣化が強い場合は、アサヒペン油性シーラーまたはアサヒペンかわら塗料専用シーラーを下塗りして下さい。

取扱い上の注意	①表示の用途以外に使用しないで下さい。②体調が悪いとき、アレルギー・化学物質に敏感な人は使用しないで下さい。③目に入ったり、皮膚に付着しないよう、保護メガネや保護手袋を着用し、また、誤飲しないよう注意して下さい。皮膚に付着したまま放置すると炎症を起こすことがあります。④塗料が濡れたまま支障がない服装で作業して下さい。⑤雨の降りそうな日、湿度の高い日、風の強い日は避け、天気の良い日に塗して下さい。夕方から朝にかけては気温が低くなり、結露する場合があります。塗膜が乾燥途中で結露するとツヤビケ、白化、ハガシを生じることがありますので、塗り終わりが遅くならないよう注意して下さい。塗料は天気の良い日を選び15時頃までを目安に行ってください。⑥塗装する時及び塗った塗料が乾くまでの間も、5℃以下にならないような時間に塗って下さい。⑦屋根を塗る場合は降りる所が最後になるように順序を考えて塗って下さい。また、転落事故のないよう充分注意して作業して下さい。塗料が乾燥するまでは、たいへんすべりやすいので、塗膜の上を歩かないように注意して下さい。⑧コーキング材、シーリング材には、密着しないものがあります。目立たない部分で試し塗りをして密着することを確認してから塗って下さい。⑨塗装を10分以上中断するときは、ハケやローラーをラップ、アルミホイルなどでつつんで、表面が乾燥しないよう注意して下さい。⑩瓦の重なり部などで塗料が詰まった場合には、皮スキ、カッターナイフなどで塗料を縁切りして下さい。塗料が詰まると雨漏り発生の原因となる恐れがあります。⑪塗装面を見るときに角度によって色が異なる場合があります。塗布量が少くないところは、異なる色に見えます。再度重ね塗りをして下さい。⑫年中の塗料の色と塗っている塗料の色とはかなり異なるように見える色もありますが、乾くと見本の色になります。⑬同じ色名でも商品が異なりますと色が異なる場合があります。⑭冬場では夏場と比較して日射量が少ないため従来塗料より寒く感じることがあります。⑮塗り面積・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。⑯温度が高くなると塗膜が軟化して粘着を生じ、物を置くとくっつくことがあります。⑰容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。⑱やむをえず塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。⑲容器を落下させると中身が漏れることがありますので取扱いに注意して下さい。	
保管上の注意	①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたずらをしていないよう注意して下さい。②直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内などの高温なところ、容器がさびやすいところには置かないで下さい。③残った塗料はしっかりとフタをしめて保管し、できるだけ早く使い切ってください。	
危険	●強い眼刺激 ●臓器の障害 ●水生生物に毒性	
救急処置	●目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。●誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。●蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。●皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。	
株式会社 アサヒペン	大阪市鶴見区鶴見4-1-12 http://www.asahipen.jp	
お客様相談室	☎06-6934-0300	
	日本製 00-1212	

※下塗りが必要な場合がありますので、裏面の「塗装方法」・「下地処理の注意」をお読み下さい。